

特別展

樋口一葉・その文学と生涯

— 貧しく、切なく、いじらしく —

「たけくらべ」「大つごもり」「にぎりえ」などの作品で知られる樋口一葉（1872～1896／明治5年～明治29年）。父と兄を失い、戸主として母と妹を養わなければならなかった一葉は、文筆で生計を立てることを志したもののうまくいかず、困窮した生活に苦しみます。そうした日々の中でも、なお「書く」ことを最後まで手放さなかった一葉が、短い生涯のなかで残した二十数作品の多くは、その死後高い評価を得て現代に至っています。

今回の展示では、日本近代文学館の企画協力のもと、一葉作品の草稿・日記・雑記などの自筆資料のほか、一葉が和歌を学んだ「萩の舎」の人々、小説の師として大きな影響を与えた半井桃水、そして「文学界」同人など文壇の人々との交流を示す書簡類等を展示します。これらの資料からは、二十四年の一葉の生涯とその暮らしぶり、そして一葉とその作品をめぐる人間模様をうかがうことが出来ます。また仙台文学館独自のコーナーとして、一葉と同時代に生き、もの書くことを志した東北の女性一若松賤子（1864～1896／元治1年～明治29年）、田澤稲舟（1874～1896／明治7年～明治29年）、相馬黒光（1875～1955／明治8年～昭和30年）—を取り上げ、明治に生きた女性たちの姿を紹介するほか、初代館長である井上ひさしの代表戯曲『頭痛肩こり樋口一葉』に関する資料も紹介します。



「たけくらべ」原稿（日本近代文学館寄託）



一葉の着物（日本近代文学館蔵）



『通俗書簡文』
（1871年／明治28年5月、博文館：日本近代文学館蔵）



一葉の文机（日本近代文学館蔵）

関連イベント

※いずれも、入場の際、特別展観覧券の半券が必要です。

1 講演「樋口一葉・その魅力と現代性」

日時：11月22日（土）13:30～
講師：小池 昌代氏（詩人・小説家）
定員：70名（先着）

申込み受付開始
10月10日（金）
10:00～

3 朗読と解説「一葉の日記」

日時：12月7日（日）13:30～14:30
朗読：渡辺 祥子氏（朗読家・フリーアナウンサー）
解説：赤間 亜生（当館副館長）
定員：50名（先着）

申込み受付開始
11月11日（火）
10:00～

2 文学講座「一葉作品を読む」

①「にぎりえ」を読む

日時：10月26日（日）13:30～15:00
講師：多田 蔵人氏（国文学研究資料館准教授）
定員：70名（先着）

申込み受付開始
9月18日（木）
10:00～

②「たけくらべ」を読む

日時：11月30日（日）13:30～15:00
講師：笹尾 佳代氏（同志社大学教授）
定員：70名（先着）

申込み受付開始
11月7日（金）
10:00～

申込み方法 電話で仙台文学館まで 022-271-3020

※いただいた個人情報は上記イベントのご連絡以外に使用しません。

学芸員による展示解説

日時：10月17日（金）、11月1日（土）、12月11日（木）
いずれも 13:30～

申込み不要、直接会場へ

※特別展観覧券が必要です。

交通のご案内

バス利用の場合

■宮城交通バス
仙台駅西口バスプール2～4・6番乗り場
仙台北・泉地区方面行
（北山トンネル経由を除く）

■市営バス
仙台駅西口バスプール6番乗り場 八乙女駅行
※いずれも「北根二丁目・文学館前」下車

駐車場 40台（無料）

台数に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

地下鉄利用の場合

地下鉄南北線「台原駅」下車、
南1番出口より徒歩約25分
（台原森林公園内あかまつの道
経由）
※山道です。雨天時・降雪時
は道が滑りやすくなりますの
でご注意ください。



今後の展覧会

企画展
「写真家・佐々木隆二のしごと（仮称）」
2026年1月24日（土）～3月22日（日）（予定）



（公財）仙台市市民文化事業団
仙台文学館

〒981-0902 仙台市青葉区北根2-7-1
TEL 022-271-3020
FAX 022-271-3044
<https://www.sendai-lit.jp/>

この印刷物は「雑がみ」としてリサイクルできます。